

「その人は豊かに実を結ぶ」

ヨハネによる福音書 15 章 5 節

女子聖学院中学校・高等学校理科教諭 鷲澤 結実

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

私の下の名前は結実というのですが、この聖書箇所「実を結ぶ」から付けられた名前です。というわけで、もともと有名な聖書箇所ではあるのですが、私にとっても親しみのある聖書の言葉です。

さて、ここでは、イエスさまがぶどうの木、私たちはぶどうの枝に例えられています。聖書では、ぶどうはイスラエル自身であり、平和と繁栄の象徴でもあります。ぶどうの実からはブドウ酒が作られ、ブドウ酒は人々の楽しみであり、日常を支える大切な飲み物でもありました。イエス様は、私たち一人ひとりが、このように重要なブドウの実を实らせる枝である、と言っているのです。

そして、このぶどうを世話してくれているのは、父なる神様ご自身です。ブドウというのは、栽培が難しい作物としても知られています。枝は、放っておくと地面を這うように育っていくので、支柱を使って枝を支えておく必要があります。また、病気になりやすく、実がなっても色がつかなかったり、大きくなかなかたりと、良い実を得るには、たくさん手間をかける必要があります。手間がかかる分、良い実がなったときは、大きな喜びがあるでしょう。父なる神様は、私たちがそのように、大切に手入れをしてくださっているのです。

もう一つ、この聖書箇所から考えたいことがあります。それは、イエス様につながっている、とはどういう意味なのか、ということです。ブドウを栽培するときは、挿木や接木という方法を使うことが多いそうです。挿木というのは、ブドウの枝を切り取って土に差し込み、そこから根や芽が生えてくるので、それを育てていく方法です。この方法を使うと、もとの木とまったく同じ性質をもったブドウをつくることができます(挿木は無性生殖になるので、もとの木と挿木で増やした木はまったく同じ遺伝情報をもっている)。もう一つの接木というのは、台木とよばれる苗に、増やしたいブドウの枝を繋ぎ合わせる方法です。挿木も接木も、植物を育てるためにもともとあった技術ですが、現在、ほとんどのブドウ農園では、接木でブドウを育てているそうです。理由としては、フィロキセラ(根アブラムシ)という害虫の被害を防ぐためです。フィロキセラは、ブドウの根に寄生し、栄養分を吸い取って、やがてブドウを枯らします。もともと北米に生息しており、ヨーロッパには生息していませんでしたが、1860年代にヨーロッパに持ち込まれると、あっという間に蔓延し、抵抗性を持たないヨーロッパのブドウは、壊滅的な被害を受けました。一度フィロキセラに感染すると、農園の土壌も汚染されてしまい、新しく苗を植えてもやがてフィロキセラに感染してしまいます。これに抵抗するために利用され始めたのが、接木の技術でした。台木として、フィロキセラに感染しにくいブドウを使い、そこに作りたいブドウの枝を接木することで、フィロキセラにも

強く、ほしい性質のブドウの実を作ることができるようになっているわけです。

今日の聖書箇所「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば」とありますが、これはイエス様が台木で、わたしたちがそれに接木された枝と考えることもできるのではないのでしょうか。ブドウが枝だけでは育つことができず、たとえ育ったとしても、病気になりやすかったり、しっかりと実を作ることができないように、私たちも、自分だけの力で生きていこうとしても、さまざまな困難や問題、不安や恐れによって、弱ってしまう、実を作れないということがあるでしょう。しかし、完全な台木であるイエス様に接木されているのだったら、どうでしょうか。私たち自身は弱い存在かもしれませんが、その弱さはイエス様によってカバーされ、どんな苦難、困難の中でも、しっかりと成長し、実を作ることができるのではないのでしょうか。

さらに、成長に必要な水や栄養分を吸収してくれるのは、根のある台木の方です。ブドウの台木がしっかりと地面に根を張り、水や栄養分を吸収してくれるように、イエス様はどんなときでも私たちが倒れないように支え、必要なものを与えてくださいます。そして、良い実がなるように枝を手入れしてくださるのは、神様ご自身です。

他のものにつながっても、このようになりません。ただイエス様、そして神様だけが、私たちがやがて作る実りを豊かなものにしてください。

もし今、困難にぶつかっている人、自分の実が何なのか、どのようなものになるのか、不安を抱えている人がいたら、自分が誰に接木されているのかを思い出してください。今すぐ実りは得られないかもしれませんが、実がなるまでには時間がかかります。ですが、イエス様につながり続けてください。みなさん一人ひとりに、豊かな実りがあることを信じて祈っています。

2024年6月26日 女子聖学院高校チャペル礼拝